

わたしたちが運ぶのは未来です



運輸省



# みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

御前崎港事務所

下田港事務所



## 「明るい一年を願って」

所長 高松 亨

新年、明けましておめでと  
うございます。

晴天が続くせいか、この冬の富士山は昨冬に比べて明るく美しく見えるような気がします。年初の神戸の地震から始まって、オウム・サリン、超円高、金融不安等、昨年は明るい話題の少ない一年でした。だから、今年こそは明るく美しい一年になってほしいと願う気持ちがそう見せるのかもしれない。でももつと前向きに、美しい富士山が明るい一年を暗示しているんだと思いたいものです。

港湾整備の分野でも明るさが見えてきたようです。まず全国的な話題ですが、昨年末の予算編成過程で港湾予算が対前年比2.0%増とかなり回復しました。また、本年度を初年度とする港湾関係五カ年計画の策定も認められました。五カ年の計画投資額については、港湾が7兆4千億余、海岸が1兆7千億余とそれぞれ現行五カ年の計画投資規模に対し約1.31倍、1.36倍となり、西暦2000年までの投資の大枠が設定されました。これらは、ここ数年港湾予算が低く押さえ

られてきた状況から見れば将来に希望を抱かせるものだと思います。

次に当地の話題ですが、港湾計画が昨年11月正式に策定されました。漁業関係者の理解を得てのことです。関係者に改めて敬意を表したいと思います。この計画の最大の目玉は、5万トン級の大型船を対象にした最新鋭のコンテナターミナルの新設計画でしょう。建設着手にはもう少し時間がかかると思いますが、世界でも最大級のこのターミナルは清水港の国際競争力を確実にアップさせると思います。この他、御前崎港では待望の多目的ターミナルの建設が今年スタートする見込みです。下田港では昨年製作を開始した新しい構造の大型ケーソンの現地設置が行われます。こうした当事務所の直轄事業や各地の港湾関係事業への協力が地域の発展につながり明るい一年を送ることになるのだと思います。年頭に当たり、このことを改めて認識しまた決意して、ご挨拶と致します。



# 清水港の港湾計画が 改定される

昨年11月27日、運輸大臣の諮問機関である港湾審議会が開催され、平成15年を目標とする清水港の港湾計画が原案どおり了承された。港湾計画は港湾整備の基本となるもので、概ね10年程度先を目標に策定されている。

(新コンテナターミナル)  
新港湾計画の中で特に注目すべき施設としては、新興津地区に計画されている水深15m岸壁の整備が挙げられる。

近年、アジアの主要港湾のコンテナ取扱量は香港、シンガポールが急成長を遂げており、高雄、釜山も順調に伸びている。世界の主要港湾のコンテナ取扱量ランキングにおいても、上位5港の内4港をアジアの港湾が占めているが、我が国の港湾においては停滞気味となっているのが実状である。この原因の一つはコンテナ船の大型化に対応した大型コンテナターミナルの未整備が挙げられる。近年のコンテナ船の船型は大型化しており、5,000個から6,000個のコンテナを運ぶ50,000D/W級から60,000D/W級以上の大型コンテナ船が就航しはじめている

が、我が国の港湾にはこれを受け入れる水深15m以上の大型ターミナルは未だ整備されていない。このためこのクラスの大規模ターミナルの整備が急務であり、現在東京、横浜、神戸等で整備が開始されている。

当清水港は、年間貿易額が全国7位の港湾で、かつ我が国唯一の24時間フルタイム稼働の港である。しかし、国際貿易の主流となっているコンテナ輸送について言えば、現在は最大水深が12mのコンテナターミナルしかなく、ターミナルの用地も狭隘のため、入港船舶も制限されたり、コンテナの五段階積等非効率な利用が余儀なくされている。こうした現状を脱却しようとして計画されたのが、今回の新興津地区のコンテナターミナルであり、具体的には、50,000D/W級の大型コンテナ船を対象とした、ヤード幅員350mを有する水深15m岸壁の整備計画である。この新ターミナルは上記のように世界でも最大級の最新鋭ターミナルであり、これにより清水港が国際競争力をアップさせることは確実である。なお、同施設については先の阪神・淡路大震災の教訓から、地震に強い、いわゆる耐震強化岸壁として整備することとなる

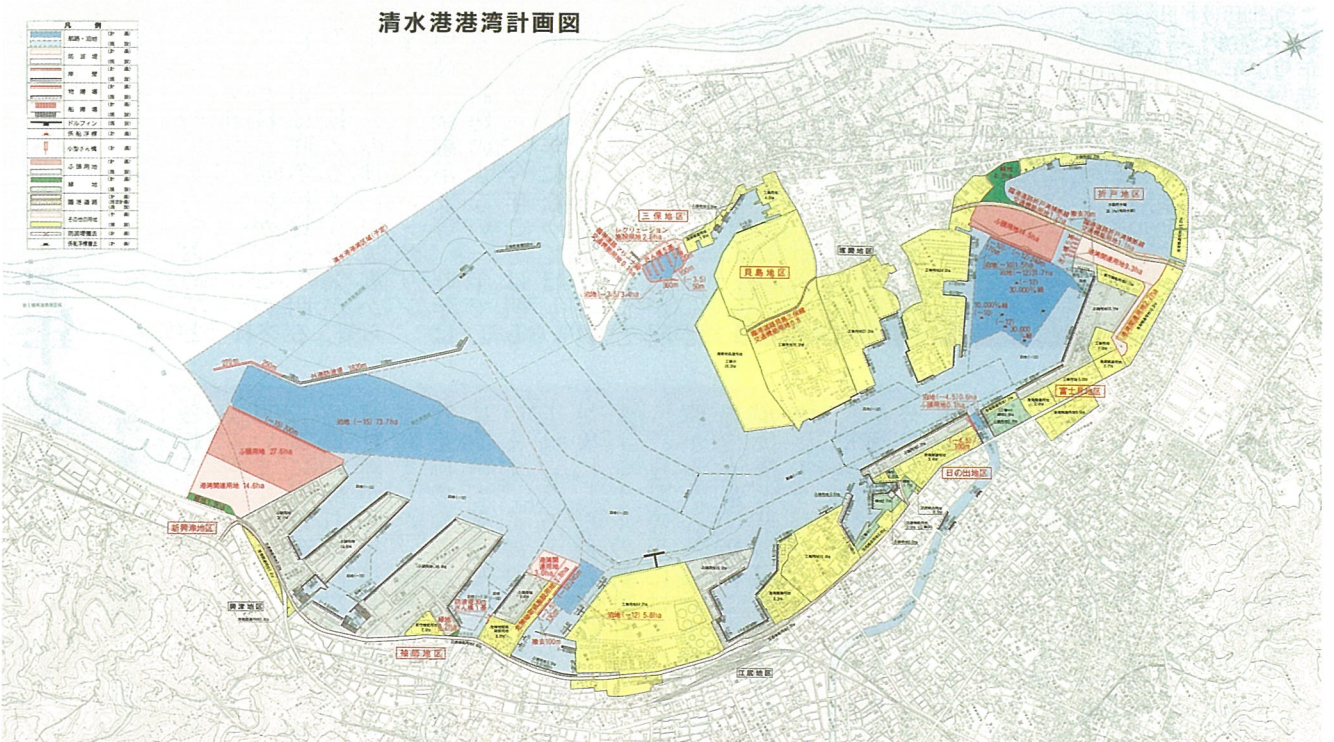
ている。  
(ウォーターフロント開発等)  
また、今回の計画では、市民生活に係わりの深いウォーターフロント開発等のプロジェクトも盛り込まれている。

まず清水港では初めてのマリナーの整備計画である。海洋性リクリエーション活動が活発化して久しいが、ヨットやモーターボートの基地となる本格的なマリナーは清水港には、これまで整備されていなかった。今回港内に散在するボート類の集約も兼ね、三保地区にプレジャーボート450隻収容のマリナーの整備が計画された。

なお、港湾計画の決定事項ではないが、関連計画として新興津地区に人工海浜800mの整備が計画されている。かつて袖師、興津にかけてあった海浜が復元され、海水浴等市民の憩いの場として活用されることとなる。

さらに、折戸地区の公共ふ頭計画に併せ、折戸湾を横断する道路の新設も計画されている。三保地区の道路混雑の緩和が期待される。

清水港港湾計画図





### T・B・Wamu製作 安全祈願祭・着工式 開催される

下田港の新型ケーソンT・B・Wamu(消波ブロック内蔵双胴型ケーソン)の製作が今年度より始まり、その安全祈願祭及び着工式が12月18日、下田港作業基地で開催されました。

当日は、これを祝うかのよう  
に快晴で、風も穏やかであり、安全祈願祭は本工事を請け負っている五洋・若築・りんかい建設の共同企業体主催で、国、県、市、地元関係者及び関係業者の出席のもと、盛大に執り行われました。

安全祈願祭の後、着工式は瀧澤庶務課長の司会で、高松所長の主催者挨拶、来賓祝辞(県・市)、大草下田港事務所長の事業概要説明とつづき、セレモニーではフロートイングドック前でテープカットが行われました。



着工式終了後、フロートイングドック内見学、懇親会が行われ、午後2時、全ての行事が無事終了しました。なお、当日は報道関係者の取材があり、新聞、テレビ等で報道されました。

下田港防波堤は昭和60年に現地着手以来、鋭意整備を進めており、今回製作するT・B・Wamuは全国で初めての構造であり、大水深域に適用されるものです。今後、避難泊地確保、津波対策のため、さらには、防波堤の親水化による地域振興のため、早期完成に向けて努力して行きたいと思っております。

なお、作業基地内の現場事務所の一角に、PR棟を設けておりますので、多数の見学者のご来場をお待ちしております。

### T・S・L(テクノスーパーライナー) 試乗記

静岡県が主催するT・S・Lの試乗会が、昨年11月中旬駿河湾内を中心に行われた。航海ルートはいくつかあったが、筆者が試乗したのは御前崎から下田を経て清水に戻るという駿河湾を横断する魅力的なルートだった。当日の天候は晴れ、波もほとんどなく絶好の航海日和だった。行程の詳細は省略するが、昼過ぎに御

前崎を出て五時過ぎに清水に帰港するまで極めて快適な船旅だった。以下感想を記す。



①スピード 評判どおりの高速。52ノット(約96キロ)は越えた。ただスピード感は余り無い、海上で目標物が無いせいだろう。

②乗り心地 バスの揺れのよ  
うとの事前説明を受けたが、バスより堅い振動。ちようど少し揺れる飛行機を感じ。

③ハイテク GPS(衛星を使った測量システム)による船位測定装置、船体各部を映し出すビデオモニターシステム等感激。

④環境安全 ジェット方式故  
だろう、殆ど航跡波がない、周辺への迷惑は少ないようだ。ただ高速のため、クルーは前方の様子に相当神経を使っていた模様。

(高松 亨)

### 御前崎港 事務所だより

### 海の中の灯台

御前崎といえば、木下恵介監督の映画『喜びも悲しみも幾年月』(昭和32年)の主要舞台にもなった御前崎灯台が有名ですが、もう一カ所御前崎の沖合に、地元の人が『御前崎の浮き灯台』と呼んでいるものがあります。

これは海岸より沖合約2.5kmの所の御前暗礁上にある御前岩灯標で、鋼鉄製の三脚を岩礁に固定し、その三脚の上約10mの円筒型灯台を載せて固定したものです。海岸から見ると小さく見えますが、近くへ行くと水面上約20メートルの高さをもつ立派な灯台です。



昔から御前崎沖は、遠州灘を航行する船舶にとっては難所であり、難破船の数も多く特に御前暗礁に座礁する船が後を絶たなかったそうです。そのような中で船の事故をなくそうと昭和31年より御前海上保安庁灯台部の依頼により、当時第二港湾建設局であつ

た清水港工事事務所が作業に当たりました。(直営施工)作業は予想以上の荒天のため非常に難行したそうですが、昭和33年3月に完成し4月から点灯しました。

当時はまだ御前崎港もほとんど整備されておらず、当然御前崎港事務所もない頃の話で、御前崎では民家を借り作業に従事したそうです。こうした当時の先輩方の努力をむだにしないよう、今後とも安全な港づくり、ひいては御前崎港の発展のため少しでも貢献できるよう努力していきたいと思えます。

(長澤隆夫)

### 下田港 事務所だより

#### 監督測量船 「しもだ」港内見学

昨年10月30日に下田市立大賀茂小学校の3・4年生37名が監督測量船「しもだ」による港内見学を行った。

当日は好天にも恵まれ、生徒達は海上から見る下田港、そして防波堤の静穏度に対する効果を体験し、防波堤の必要性を理解してくれたようであった。

以下生徒達からのお礼の手紙を紹介いたします。(原文のまま) ☆ふねのお兄さんへ 社会科見学でふねにのせて





(小 椋 進)

今後も地元への P R 事業を積極的に実施したいと思えます。

(4 年 渡辺沙央里)

☆船のおにいさんへ  
わたしは、はじめて船にのりました。おにいさんがうみのことをくわしくおしえてくれてよくわかりました。これからもたくさんさんの研究してぼうはていをつくってくださ

い。たくさんさんのことがわかってたのしかったです。

(4 年 増田美佳)

くれてありがとうございます。よくお父さんと赤いとうだいのところに つりにいきます。そのとき、わたしは、ていぼう

うってつりをするとところだと思っていたけどお兄さんたちがおしえてくれて、つなみとかをふせぐためにつくったことがわかりました。お仕事をがんばってください。

昨年 12 月 15 日、清水マリ

ンビルにおいて清水港懸賞論文事務局が募集した「21 世紀の清水港」に応募のあった中から選ばれた優秀者に対して表彰式が行われました。

表彰式は、10 時 30 分から清水市長、清水港管理局長、清水港利用促進協会会長の挨拶の後、最優秀賞に岡村欽一氏(清水市)、優秀賞に堀内昌子氏(清水市)、木野泰志氏(静岡市)、静岡新聞・SBS 静岡放送特別賞に佐野和美氏(富士郡)の 4 氏が選ばれ賞状、賞金、楯がそれぞれ手渡されました。

「21 世紀の清水港」提言  
懸賞論文表彰式

清水の代表的海岸である三保、由比、久能の地元海岸の現状をよく把握し、消波ブロックの必要性を検証したうえで「発電型可動式消波工」、「岩型ブロック「岩屋くん」」、「多目的安全ブロック」、「サンゴ型ブロック」の 4 種類の消波ブロックを考えデザインされています。

※左図は、「岩屋ブロック」「岩屋くん」です。



全国高等学校デザイン選手権  
清水東高等学校チームが優勝  
(景観に配慮した消波ブロック)

昨年 10 月 29 日、山形市の東北芸術工科大学で開催された、全国高等学校デザイン選手権



「清龍丸」  
浚渫兼油回収船  
清水港で一般公開予定

第五港湾建設局所有の「清龍丸」(3,526 トン)は船舶の輻湊する航路、泊地等を

浚渫する船であり、また大量油流出事故による海洋汚染防止のための世界最大規模の油回収船でもあります。



「清龍丸」は船舶等の事故による油流出に対しても数多く回収に出勤しており、中でも平成 2 年 1 月 25 日に木材運搬船「マリタイム・ガーニア号」(7,027 G/T)が京都府伊根町浦沖で座礁し、大量かつ広範囲に油が流出した際、その回収作業の中核となって作業したことで有名です。この「清龍丸」が、大量流出油事故の緊急出動に備え、3 月 6 日に清水港外港防波堤沖で訓練を行います。翌 3 月 7 日には日の出岸壁において一般公開しますので是非この機会に「清龍丸」をご覧ください。

◆ 宿舎用地を売却処分  
当所の宿舎は老朽化が進ん

だため、平成元年度から立体集約化を進め昨年度で完了した。そのため、現在数ヶ所に分散している宿舎用地のうち、緑が丘町と駒越南町(約 325 m<sup>2</sup>・約 200 m<sup>2</sup>)の用地処分事務を進めている。詳しくは後日、公示等でお知らせすることとなりますが、詳細は当所までお尋ね下さい。

管内の動き

- 11 月 17 日 浜名 M T P 委員会
- 28 日 田子の浦港景観計画調査委員会
- 30 日 駿河湾地域における広域中核拠点整備計画調査幹事会
- 12 月 7 日 駿河湾地域における広域中核拠点整備計画調査委員会
- 18 日 下田港新構造防波堤着工式
- 1 月 17 日 清水市臨海工業地帯再整備計画見直し調査検討委員会
- 23 日 浜名 M T P 幹事会
- 31 日 浜名 M T P 委員会
- 2 月 13 日 下田防波堤技術検討委員会
- 3 月 5 ~ 7 日 清龍丸外洋訓練 (清水港沖)

\*発行所\*  
清水港工事事務所  
〒424 静岡県清水市日の出町七一二  
TEL (〇五四三) 五二一四一四(代)